

第 18 回研究大会が開催されました

■大会開催報告

2019年6月29日(土)に日本事務器株式会社にて、第18回研究大会を開催しました。午前のプログラムでは、基調講演として「ヘルスリテラシーと健康医療情報—公共図書館の健康医療情報提供サービスから考える—」をテーマに、慶應義塾大学名誉教授の田村俊作先生にご講演いただきました。午後のプログラムでは「ヘルスリテラシーと健康医療情報」をテーマとしてシンポジウムを開催、並びに5件のポスター発表が行われました。参加者数は、正会員27名、非会員17名(但し、パネリスト等の3名を含む)、学生会員3名、非会員学生5名の合計名でした。

開会に先立ち、植村八潮会長から挨拶とプログラムのご紹介をいただきました。

午前は「ヘルスリテラシーと健康医療情報—公共図書館の健康医療情報提供サービスから考える—」というテーマで田村俊作氏による基調講演を行いました。田村氏からは、公共図書館の課題解決支援サービスの一つに位置づけられる「健康医療情報サービス」について、様々な事例を挙げながら、現状やその意義についての知見を述べていただきました。

まず、健康医療情報を含めた課題解決支援サービスの意義として、一つには医療、法律、ビジネス等、かつて限定的にしか扱ってこなかった領域に踏み込み、公共図書館サービスの範囲を拡大したこと。二つには、サービス視点を提供側から利用側へと転換させ、利用者のニーズに即したサービスが行われるようになった点が指摘されました。

健康医療情報のサービスは、棚づくりからはじめられるが、関心が潜在化している人に向け、「セレンディピティ」と言って棚を見て関心が誘発されるようなものがあることが言及されました。図書館の利点に着眼点を置いた、興味深い指摘であったといえるのではないのでしょうか。

健康医療情報サービスの主な内容としては、棚づくりと展示、情報検索の支援、講演会の開催、相談会の実施、外部イベントへの図書館からの出前が挙げられました。具体的な事例として、がん患者と連携した展示や病名を見出しとした棚づくり、同じコーナーにがん相談支援センターや患者図書室の案内を行うといった様子が紹介され、現場の様子を拝聴することができました。また、講演会と相談会をセットで行うことで、より参加者にとって有意義で実りあるサービスとなる点も指摘されていました。

多くの図書館での実績についてもふれられ、逗子市立図書館のブックトーク、岡山県立図書館のパスファインダー、埼玉県立久喜図書館のリサーチガイドなどが取り上げられており、実務家や研究者、様々な立場の参加者にとって有意義な講演となりました。このような活動をもとにさらなるサービス対象者の拡大について、高齢者や認知症患者、障害者、子ど

も等へ向けた展開への動きも高まっているという事が指摘されました。

最後に、「ヘルスリテラシー」の多面性という観点から、あらゆる人々を対象として、必要な情報を得る機会を与え、潜在化したニーズにも気づきの機会を提供する今後の公共図書館の貢献の可能性が論じられており、参加者が改めて検討する場ともなりました。

基調講演の後、2019年度の総会が開催されました。

午後は「ヘルスリテラシーと健康医療情報」をテーマに日向良和氏（都留文科大学共通教育センター准教授）をコーディネータに、栗本安津子氏（株式会社メディカ出版東京オフィス長）、田村俊作氏（慶応大学名誉教授）、舟田彰氏（川崎県立宮前図書館課長補佐）の3名をパネリストに迎え、今後の図書館における健康医療情報提供の目標の一つである、「利用者のヘルスリテラシーの向上」についての課題を探り、「公共図書館の利用者は『健康医療情報』というコーナーに何を期待するのか?」という会場への問いを含めたシンポジウムを開催しました。

最初に、パネリストの栗本氏から図書館を通じた一般向け健康医療情報出版の例として、「子どもたちに届ける健康医療情報」を題したご報告をいただきました。病気に関する情報だけでなく、医療従事者や薬物乱用防止に関する内容も扱っており、ヘルスリテラシー教育が子供にこそ重要であるという視点についてもお話がありました。続いて、舟田氏より健康医療情報を収集、提供する側からの実例や課題についてご報告をいただきました。図書館が人とつながりの場であること、地域資源を所有している場であることについて言及され、今後の図書館・福祉・市の横のつながりの重要性が指摘されました。

その後、基調講演者の田村氏とコーディネータの日向氏を交えてのディスカッションが行われ、会場から寄せられた質問に対しても議論があり、改めてヘルスリテラシーと今後のサービス展開の多様性について感じさせられる機会となりました。

シンポジウム終了後に行われたポスター発表は5件あり、ライトニングトーク（口頭発表）が行われた後、ポスターを囲んでの意見交換、会員の投票によるが行われ、最優秀ポスター発表が選出、表彰されました。

ポスター発表者によるライトニングトークでは、岡野裕行氏（皇學館大学）による「文学館の広報活動を支援する一館報『日本近代文学館』を事例として」、佐藤正恵氏（千葉県済生会習志野病院）、渡邊清高氏（帝京大学）、北澤京子氏（京都薬科大学）、三輪眞木子氏（放送大学）による「各ライフステージにおけるヘルスリテラシー向上のためのメディアドクター指標活用の試み」、相馬大悟氏（東京電機大学大学院）、矢口博之氏（東京電機大学）による「出版社における電子書籍・デジタル雑誌のビジネス動向調査（2018年）」、岡部晋典氏（愛知淑徳大学）、飯尾健氏（京都大学）、赤山みほ氏（八洲学園大学）、逸村裕氏（筑

波大学)による「人々は科学的合理性に著しく反する図書館の蔵書をどう見ているのかーWeb調査を手がかりにー」, 渡辺哲成氏, 阿加井愛香氏, 齊藤貴志氏, 小川真樹氏(以上日本事務器株式会社)による「司書課程授業でのクラウド型図書館システムの教育活用」の発表が行われました。

その後, ポスター掲示コーナーにて, 発表者と参加者によるディスカッションの場が設けられ, 活発な意見交換が行われました。続いて会員参加者の投票により最優秀発表の選出が行われ, 佐藤正恵氏(千葉県済生会習志野病院), 渡邊清高氏(帝京大学), 北澤京子氏(京都薬科大学), 三輪眞木子氏(放送大学)による「各ライフステージにおけるヘルスリテラシー向上のためのメディアドクター指標活用の試み」が最優秀発表に決定し, 植村会長より表彰されました。最後に, 長塚隆副会長より閉会挨拶があり, 研究大会の幕を閉じました。

■プログラム概要

10:00 受付開始

10:30 開会挨拶

10:35 基調講演

「ヘルスリテラシーと健康医療情報ー公共図書館の健康医療情報提供サービスから考えるー」

田村俊作氏(慶応義塾大学名誉教授)

12:00 総会, 昼食

13:30 シンポジウム

「ヘルスリテラシーと健康医療情報」

コーディネータ: 日向良和氏(都留文科大学准教授)

パネリスト: 田村俊作氏(慶応義塾大学名誉教授)

舟田彰氏(川崎市立宮前図書館)

粟本安津子氏(株式会社メディカ出版)

15:45 ポスターライトニングトーク

16:45 ポスターディスカッション

17:30 表彰式, 閉会挨拶

■ポスター発表

1. 文学館の広報活動を支援するー館報『日本近代文学館』を事例としてー
岡野裕行(皇學館大学)

2.各ライフステージにおけるヘルスリテラシー向上のためのメディアドクター指標活用の試み

佐藤正恵（千葉県済生会習志野病院），渡邊清高（帝京大学），北澤京子（京都薬科大学），三輪眞木子（放送大学）

3.出版社における電子書籍・デジタル雑誌のビジネス動向調査（2018年）

相馬大悟（東京電機大学大学院），矢口博之（東京電機大学）

4.人々は科学的合理性に著しく反する図書館の蔵書をどう見ているのかーWeb 調査を手がかりにー

岡部晋典（愛知淑徳大学），飯尾健（京都大学），赤山みほ（八洲学園大学），逸村裕（筑波大学）

5.司書課程授業でのクラウド型図書館システムの教育活用

渡辺哲成，阿加井愛香，齊藤貴志，小川真樹（日本事務器株式会社）

* 発表資料について

パネルディスカッション，ポスター発表について，発表者の予稿を掲載した「情報メディア学会第18回研究大会発表資料」を当日参加者に配付しました。残部がありますので，ご希望の方は事務局にお申し込みください。代金1,000円（他に送料を加算）は，発表資料送付時に同封する郵便振込票にてお払い込みください。

また，第18回研究大会のポスター発表予稿集原稿は学会ウェブページで公開をしています。

■ おわりに

この大会の企画と準備は，以下の会員をメンバーとする大会企画委員会が中心となって行われました。これらの方々の多大のご尽力に感謝致します。また，企画委員のオブザーバとして，会場担当である日本事務器株式会社の阿加井愛香氏にも参加いただきました。

[大会企画委員会]

委員長	石川 敬史	十文字学園女子大学
委員	天野 晃	国立研究開発法人 物質・材料研究機構
委員	岡部 晋典	愛知淑徳大学
委員	佐藤 翔	同志社大学
委員	千 錫烈	関東学院大学
委員	角田 裕之	鶴見大学

委員 長谷川幸代 跡見学園女子大学

委員 日向 良和 都留文科大学

最優秀ポスター発表受賞者インタビュー

各ライフステージにおけるヘルスリテラシー向上のためのメディアドクター指標活用の試み

◎ 佐藤正恵（千葉県済生会習志野病院）、渡邊清高（帝京大学）、北澤京子（京都薬科大学）、三輪眞木子（放送大学）

1. 最優秀ポスター発表受賞おめでとうございます。受賞について一言お願いいたします。

す。

本学会は初参加でしたが、温かく迎えてくださり、このような榮譽ある賞をいただき、大変光栄です。発表を聞いて質問やコメントをお寄せいただき、投票して下さった皆様に心からお礼申し上げます。

2. どういった経緯で今回の研究を行うことになったのでしょうか？ 経緯を教えてください。

さい。

発表者（佐藤）は病院図書室・患者図書室で司書として情報提供に携わっています。新聞やインターネット等メディアにおける医療・健康ニュースの信頼性は大きな課題です。

医療・健康ニュースを評価するメディアドクター指標はオーストラリアで始まり、世界各国で使用されてきました。日本では2007年に「メディアドクター研究会」が発足し、10年以上にわたり、医療・健康情報の報道事例の分析や評価を通して、医療情報の質の向上を目指して議論を重ねてきました。各国の活動が資金不足などで休止する中で、日本の活動は独自に進化し、活性化してきました。すなわち、定例会を開催し、医療専門家とジャーナリストに加え、学生・市民や患者支援団体、図書館員、研究者や企業など、情報の送り手と受け手としての幅広いバックグラウンドを持つ参加者によるディスカッションが特徴です。「新規性」「代替性」「科学的根拠」などの10項目の評価表に加え、独自の5項目簡略版評価表を作成し、定期的にブラッシュアップしています。さらに医療者・ジャーナリスト・医学図書館司書などの専門家が解説を加えることで、中高生から高齢者まで、幅広い世代のヘルスリテラシーと情報リテラシー向上のための場として機能しています。

また、定例会を行う東京での開催に加え、各地での「出張版ご当地メディアドクター」を行っています。地元のメディアや地域で医療や健康の情報に関心のある方にご参加いただいております。反響は大変大きく、図書館員向けの研修や患者会でのワークショップ等に活

用されています。

このようにメディアドクター研究会の活動は今回の研究会テーマ「ライフステージにおけるヘルスリテラシー」に合致しており、情報メディア学会の専門家の皆様に活動を知っていただき、またご意見をいただければと思います、発表しました。

3. ポスター発表の研究の概要について教えてください。

【背景】近年、インターネット等で医療健康情報を気軽に入手できる情報環境は整ってきました。同時に、受け取った情報を吟味して適切な選択を行うインフォームド・チョイスが重要になっています。しかし、日本は欧州に比べヘルスリテラシー得点が低いという報告があります。

【方法】2007年に医療に関するメディア報道のあり方を5項目・10項目の指標を用いて勉強する「メディアドクター研究会」が発足しました。中高生向けの授業ではヘルス&情報リテラシー向上、社会人中心のワークショップでは情報発信者・受信者・支援者それぞれの視点での知識習得、高齢者向けのセミナーではインフォームド・チョイスの方法を知ることが期待できます。

【結果と考察】メディアドクター指標を用いたワークショップは、得られた情報を自ら吟味することで、各ライフステージにおける情報リテラシーとヘルスリテラシー向上に効果が期待できます。

4. デザイン面などで工夫した点を教えてください。

今回は口演で詳細をご説明できるので、ポスター作成は要点を絞り遠くからもすっきりとわかりやすいことを心がけました。さらに事前に会場の写真をお送りいただきましたので、会場のイメージで青を基調にしました。

5. ポスター制作にあたっての苦労話やエピソードなどありましたら、教えてください。

い。

ポスターより、口演用のパワーポイントに盛り込みたい情報が多くなり、メッセージを明確にするために、ぎりぎりまで推敲している状況でした。

6. ポスター発表時の会場の人からの反応はいかがでしたでしょうか？

今回のテーマに合致した演題だったことで、ヘルスリテラシーにご関心のある参加者が多かった印象です。学会後の懇親会やメールで質問や出張版の問い合わせを多くいただき、反響の大きさに驚いております。

ご興味のある方は、機会がありましたらぜひメディアドクター定例会にご参加ください。また、出張版メディアドクターへのお申込みもお待ちしております。

メディアドクター研究会 Web サイト：<http://mediadoctor.jp/>

7. ポスター発表の論文発表のご予定は？

今後、地域でのワークショップでのアンケート結果等のデータを集積し、論文作成につなげ、いずれ「情報メディア研究」にも投稿したいと考えております。

このたびは誠にありがとうございました。